〈ケア〉を考える会（第 173 回）

■日時：**2024 年 3 月 10 日**（日） **13:30～15:00**

■会場／参加方法
①「よりあい場ぁ（BAR） ねむの木」（倉敷市真備町箭田 5188／林道也宅）
② オンライン（Zoom）‥‥会場より発信します

■内容：読書対話‥‥本を読んで対話します

『治したくない ひがし町診療所の日々』

203 頁～最終頁 （斉藤道雄:著 みすず書房 2020 年 5 月刊）

■懇親会：15:30～17:30‥‥食べながら飲みながら語り合います（持ち込み歓迎）
※ 懇親会参加者は飲み物をご持参ください

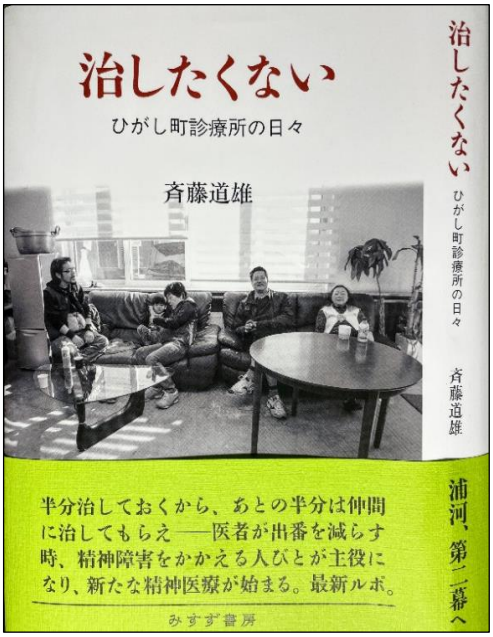
■参加：どなたでも参加できます。初参加歓迎。参加費無料（懇親会参加者は 1,000 円）

■申込／問合せ：林道也まで ⇒ michi-care@outlook.jp 090-5366-1497

※ 会場参加は申し込みが必要です

『治したくない』（本書から抜粋）

▼▼私たちが深く心しなければならないのは、(･･･)当事者の力に目を向けることなのだ。彼らを「できない人」としか見ない、その視線こそが彼らの力を見逃し、しばしば私たちに道を誤らせることになったのではないか。(･･･) 当事者っていうのは問題の、悩みの主役になっていないとだめですよね。(207-208 頁)
▼▼幻覚や妄想は、一対一で聞いてもつまらない。けれどみんなの中で話せば、こんなおもしろいことはないというときがある。(･･･) しかも笑いに誘われ、じつは、と、自分の経験を話す住人が次々に出てきたのである。(･･･) 浦河ではこのときから、幻聴や妄想が精神病の一部として否定的に見られることはなくなった。みんなとともに語り合い、楽しむべきテーマへと変わっていったのである。(219-220 頁)
▼▼精神障害とはなんだろうか。(･･･) 最初にあったのは不安だった。精神障害者は何をするかわからないという、よくある誤解と偏見だ。(･･･) けれど彼等と一緒にいると、そんな不安はあっけなく消える。みんな病気はあってもただの人なのだ。(･･･)(229 頁) ▼精神科の基本ってのは治すことじゃないなと。問題抱えた人をどう、何が支援になりうるのか、この人たちの力になるってどういうことなのかって。現状を踏まえながら、そこにね、なんか謙虚に向き合わないとだめですね。(234 頁) ▼精神障害という現象を理解し、制御することはできない 。(･･･) 「治すことじゃない」という世界観が構築される。「病ではなく、暮らしを見る」という方向性が定まる。(235 頁) ▼精神障害にどう応じればいいのか正しい答はないし、応答していればどこかにたどりつける保証もない。そこにかかわる者は誰でも、当事者であれ支援者であれ、自分のしていることが何か説明はできない。けれどそこに「何らかの意味」を見いだすことはできる。(240 頁) ▼私たちにできるのは笑うこと、そして考えることだろう。(･･･) 精神障害という現象は、ついには私たち自身が何ものなのかということを考えさせる。(241頁)



■おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う。
「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく。
対話には結論はありません。
プロセスをゆたかにできなくては。
（長田弘『なつかしい時間』191 頁）

■わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。
（鷲田清一『老いの空白』227 頁）

〈ケア〉を考える会 Zoom ミーティング
▼ミーティング ID ⇒ 823 8391 6541
▼パスコード ⇒ care117

■ 4 月例会:**4 月 7 日**(日)13:30～ 倉敷市真備町の会場で開催(Zoom オンライン有)
■ 5 月例会:**5 月12日**(日)13:30～ 京都市下京区〈五条〉の会場で開催(Zoom オンライン有)